

名古屋市消防航空隊



名古屋市消防局

本市におきましては、昭和48年4月にヘリコプター1機を導入し、所要の航空隊員とで編成する「消防航空隊」を発足させ、今日まで数多くの消火、人命救助をはじめ各種災害の情報連絡、広報等の広範な消防活動に活躍してまいりました。

近時、東海沖地震の発生が予測されるなど、都市の大震災対策をはじめ救急救助体制の充実強化がいっそう重要な課題となっており、なかでも、これらに対応すべくヘリコプターの複数機による常時出動体制の確保等航空消防の充実強化が強く要望されています。

この時にあたり、このたび、大型ヘリコプターを新たに導入増強できましたことは、複数機による有機的な活動を通じて、あらゆる都市災害から市民生活の安全を確保するうえで、誠に意義深く、必ずや市民の皆様様の御期待に十分添えるものと確信いたします。

ここに、市民の皆様のいっそうの御理解と御協力をお願い申し上げます。

昭和56年5月



消防航空隊の沿革

- 昭和48年3月 SA316BアルウェットⅢ型ヘリコプターを導入「なごや」と命名
- 昭和48年4月 名古屋市消防航空隊の設置 基地(ヘリポート)を名古屋空港内におき、航空隊員6名をもって運用開始
- 昭和48年9月 名古屋市、京都市、大阪市及び神戸市で「四都市航空消防相互応援協定」を締結
- 昭和55年12月 名古屋空港内北西部に航空隊庁舎及び格納庫を新設移転
- 昭和56年3月 SA365C ドーファン2型双発ヘリコプターを増機
航空隊員9名に増員
- 昭和56年5月 「なごや2」と命名し運用開始



消防航空隊の任務

- ★ 震災・風水時や火災時における被災者の救助及び避難誘導
- ★ 高層ビル火災等における人命救出
- ★ 林野火災時における消火活動
- ★ 空からの警戒・視察及び現場指揮
- ★ 消防隊員、消防機械器具及び資材の空輸
- ★ 救急患者の救護及び搬送
- ★ 救援物資の空輸
- ★ 情報連絡及び広報活動

活動のあゆみ

航空隊の出動件数は、年々増加の一途をたどっており、発足以来、昭和56年3月末までの火災出動263回、救急出動2回など延べ出動回数1,694回、延べ時間1,567時間15分にわたって活躍した。

主な活動

- 昭和50年3月27日 守山区東谷山に発生した林野火災に出動し、消火バケツによる空中からの消火活動を実施した。
- 昭和51年1月30日 中区千代田三丁目に発生した中高層ビル火災において、強風下救助隊員を降下させ、人命救助活動を実施した。
- 昭和51年9月16日 瑞穂区名古屋市立大学病院収容の手切断救急患者を三重県久居市の専門病院に空輸した。
- 昭和53年4月20日 西区又穂町に発生した第四次火災に出動し、上空から情報収集及び指揮連絡等を実施した。

「なごや2」の性能



ドーファン2型 フランス製
機体登録番号 JA 9557



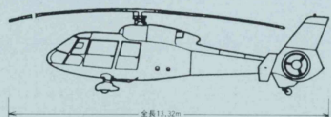
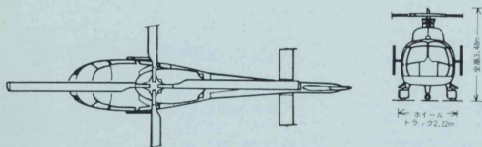
操縦席の計器盤



座 席



人や物の吊り上げ及び吊り下げ装置



エ ン ジ ン	ツルボメカアリ エル1A	最 大 速 度	315km/h
最 大 出 力	630馬力×2基	巡 航 速 度	220km/h
空 虚 重 量	2110kg	実用上昇限度	4500m
最大全備重量	3400kg	最大航続距離	440km
有効搭載量	1290kg	最大航続時間	2時間
座 席 数	14座席	燃 料 搭 載 量	640ℓ
装 備 可 能	4 個	ホイスト能力	275kg
担 架 数		貨物吊り 下げ能力	1300kg

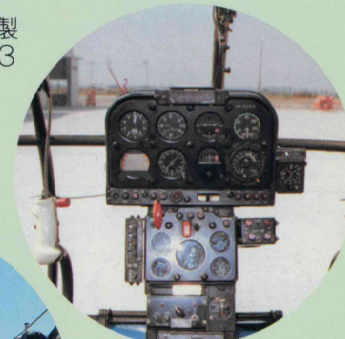
「なごや」の性能



アルウェットⅢ型フランス製
機体登録番号 JA 9093



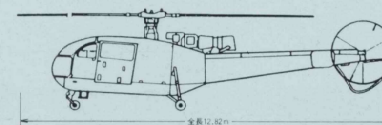
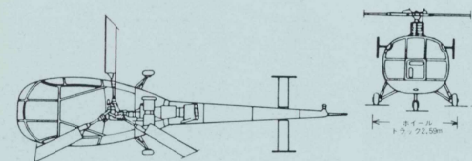
座 席



操縦席の計器盤



人や物の吊り上げ及び吊り下げ装置



エ ン ジ ン	ツルボメカアル ツーストⅢB	最 大 速 度	210km/h
最 大 出 力	550馬力	巡 航 速 度	170km/h
空 虚 重 量	1260kg	実用上昇限度	4000m
最大全備重量	2200kg	最大航続距離	467km
有効搭載量	940kg	最大航続時間	2時間45分
座 席 数	7座席	燃 料 搭 載 量	565ℓ
装 備 可 能	2 個	ホイスト能力	175kg
担 架 数		貨物吊り 下げ能力	750kg

ヘリポートの位置と緊急出動

ヘリコプター「なごや」及び「なごや2」は、名古屋空港に常駐しており、離陸後、およそ7分で名古屋市内のどこでも到着できます。

赤線— なごや

青線— なごや2

